

庁 議 の 概 要

◎開催日時：令和7年11月28日（金）午前8時30分～午前8時45分

◎概 要：以下のとおり

◎出席者：市長、秋元副市長、足立副市長、教育長、水道事業管理者
部長級18人

◆案件・・・6件

* 総務部

◎年末年始の庁議及び行事予定について

・年末行事：市長の挨拶 12月26日（金）午後5時～（庁内放送）

・年始行事：市長・議長の挨拶 1月5日（月）午前9時～（庁内放送）

庁議 1月5日（月）午後1時～

・担当課：総務部秘書課

◎効果的な1on1面談の設計と実践研修の実施について

・内 容：管理職員として、部下との信頼関係の構築、心理的安全性の確保や成長支援等に向けた効果的な1on1面談を行うための知識・スキル習得を目的とした研修の実施について

・担当課：総務部人事課

* 企画財政部

◎物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用について

・内 容：物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用について

・担当課：企画財政部財政課、政策企画課

* 市民文化部

◎福祉文化会館活用事業の開催について

・開催日等：12月4日（木）～21日（日）の木～日曜日（12:00～19:00）/福祉文化会館 ほか

・担当課：市民文化部文化振興課

・資 料：別紙のとおり

* 市民文化部・福祉部

◎「おにも見にクールアート展 2025」の開催について

・開催日等：12月2日（火）～5日（金）/おにクルオープンギャラリー・エントランス広場

・担当課：市民文化部人権・男女共生課、福祉部障害福祉課

・資 料：別紙のとおり

* 健康医療部

◎茨木市新型インフルエンザ等対策行動計画〔第2版〕（案）の庁内意見募集について

・内 容：茨木市新型インフルエンザ等対策行動計画〔第2版〕（案）の庁内意見募集について

・担当課：健康医療部健康づくり課

◆特別職発言等特記事項
(福岡市長)
・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用について
同交付金については現在国において審議中ではありますが、迅速な対応が求められることになりますので準備のほどよろしくお願いします。

EXHIBITION | アートブックとは異なる側面から印刷や複製について考えることを目的とした展覧会

ART BOOK FAIR | アーティストユニットTHE COPY TRAVELERS が企画する新しいアートブックフェア

20225.
12.44-12.21
IBARAKI
ART BOOK
FAIR
茨木
アートブック
フェア
by THE COPY TRAVELERS

2025年12月4日(木)~12月21日(日) ※オープンは本曜日~日曜日
茨木市福祉文化会館(オークシアター)

ICAWW

透明な技術——鬼が出るか、蛇が出るか

2025年12月4日(木)~12月21日(日) ※オープンは本曜日~日曜日

茨木市福祉文化会館(オークシアター) 4F

ICAWW

ART BOOK FAIR | アーティストユニットTHE COPY TRAVELERS が企画する新しいアートブックフェア

20225.
12.44-12.21
IBARAKI
ART BOOK
FAIR
茨木
アートブック
フェア
by THE COPY TRAVELERS

2025年12月4日(木)~12月21日(日) ※オープンは本曜日~日曜日

茨木市福祉文化会館(オークシアター) 1F

ICAWW

makomo
аккомо

茨木市福祉文化会館 2階・地下2階

さつき 見た 夢

makomo

松塚イエンセン哲子

2025年12月4日(木)ー12月21日(日) 12時ー19時 月・火・水休み

茨木市福祉文化会館 2階・地下2階

real SOU は、SOU (JR 総持寺駅アートプロジェクト) の実作品を展示する展覧会として、2018 年の SOU の開始より半年ごとに開催されてきました。

SOU は、2018 年 3 月の JR 総持寺駅開業と共に、駅自由通路の壁面を使い、現代美術を軸とした多様な作品を大型プリントで紹介するアートプロジェクトに対し、real SOU は、SOU での展示作品とともに、アーティストの活動や表現の紹介、周辺作品も合わせて展示します。展示会場には茨木市内の空き店舗や遊休施設などを使用し、アートによる場の活用や再生についても考えます。



SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクト



茨木市福祉文化会館 (オークシアター)

企画・運営 共催
One Art Project 茨木市
予定は変更する場合があります
最新情報はコチラ

茨木市福祉文化会館 (オークシアター)

〒567-0888 大阪府茨木市駅前 4 丁目 7-55

阪急茨木駅より西へ徒歩 10 分、JR 茨木駅より東へ徒歩 10 分

※会場に駐車場はありません。(お近くの市営駐車場、コインパーキングをお使いください)

ICAWW

IBARAKI CONTEMPORARY ART WEEKS

茨木アートブックフェア | real SOU | HUB-IBARAKI ART PROJECT | 現代美術 - 茨木 キュレーション企画



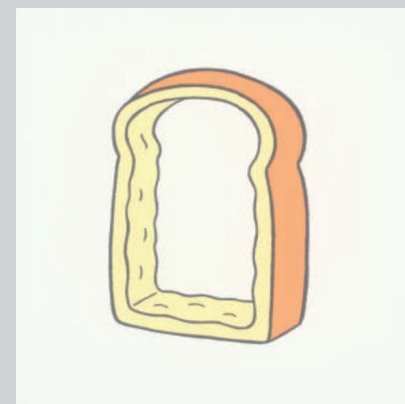
「real SOU 特別イベント」
makomo ポップアップストア
期間中、2 日間限定で makomo のグッズを特別ブースで販売します
12 月 13 日(土)・12 月 14 日(日) の 2 日間
2 階 makomo 展示スペース(予定)

16 回目を迎える real SOU では、現在「JR 総持寺駅の SOU」で展示紹介をされている makomo (マコモ) と、松塚イエンセン哲子の二人の作家を紹介します。

makomo (1978 年生まれ・大阪在住) は、アーティストとして展示発表を行うとともに、イラストレーションのクライアントワークや絵本の出版なども行い、幅広く活動をしています。松塚イエンセン哲子 (1972 年生まれ・デンマーク在住) は、デンマークで立体作品や写真と文章を組み合わせた作品などで制作・発表を行っています。

二人の作品は「一見全く違う印象を与えますが、今回の展覧会のタイトルとなる「さつき見た夢」は、それぞれの作品の印象を結びつけてくれます。makomo のイラストレーションのような「見愛らしく見える絵は、実は単純なものではなく、そこには何にも限定できないイメージが描かれています。作者が「だれもが描ける誰も思いつかなかった絵」と語る、考えが尽くされた入念な作品は、決して消費・消化されることなく、私たちのの中に留まります。松塚イエンセン哲子は既存の言語や情報とはまったく無縁と思わせるような姿勢で作品を生み出します。「何処からか言葉が語り掛けて来ます。それは自分でも理解できない感覚で何処から来ているのだろうと不思議な気持ちになります」と語る作者は、自身をまるでシャーマン的な役割として何かと作品を繋げます。そこには確かに言葉では説明できないけれども、共通する「本質」が残るのかもしれない。ここで紹介する二人の作品は「さつき見た夢」のように、正確に把握や認識されることを不可能にし、しかしとても間接的に私たちに影響を与えてくれるものではないでしょうか。

合わせて今回の展示会場である茨木市福祉文化会館は、今回の展覧会(同時開催としての「CAW」)を最後に、閉鎖・解体を予定しています。展覧会が今とここを体験することである一方、まもなく姿を消す茨木市福祉文化会館で行われたことの記憶は、再生不可能な「さつき見た夢」のようになることを同時に理解することとなるのです。



makomo 「パンおいしい」



松塚イエンセン哲子 「ふれ」

2
0
2
5

EXHIBITION

12/4^{thu} - 12/21^{sun}

Open Thursday to Sunday only

||=|||3

HUB=IBARAKI ART PROJECT 2025

生成の庭

Gardens of becoming

Moriko Okaku
尾角典子

日 時: 2025年12月4日(木) - 12月21日(日)

木金土日のみ開催

時 間: 12:00 - 19:00

入場料: 500円(花の種付き)

大学生以下無料(学生証提示要)

茨木市在住・在勤 平日のみ無料(要証明書提示)

※土日は市外・市内問わず入場料500円

会 場: 茨木市福祉文化会館(オークシアター)3階

Dates: December 4 - 21, 2025 (Open Thursday-Sunday only)

Hours: 12:00 - 19:00

Admission: 500 JPY (with flower seeds)

Free for university students and younger (with student ID)

Free on weekdays for residents or workers in Ibaraki City
(with proof of address/employment)

*On weekends and holidays, admission is 500 JPY for all visitors
regardless of residence, except students.

Venue: Ibaraki City Welfare Cultural Center (Oak Theater),
3rd Floor

公益財団法人
茨木市文化振興財団
IBABUN
Ibaraki City Cultural Foundation

主 催 | 公益財団法人茨木市文化振興財団

助 成 | 一般財団法人地域創造 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

後 援 | 茨木商工会議所 茨木市観光協会

茨木市文化振興財団に移管されリニューアルした「HUB-IBARAKI ART PROJECT」。二年目となる今回は、京都とロンドンを拠点に活動するアーティスト・尾角典子を迎え、大阪では初めてとなる個展を開催します。本プロジェクトは、アーティストが茨木市をリサーチすることを軸に、そこで生まれる学びや気づき、対話をもとに作品が立ち上がる過程を重視しています。

尾角は、イギリスでアニメーションを学んだのち、コラージュを基盤としたアニメーション作家として活動をはじめました。断片を切り取り、重ね合わせ、新しい物語を立ち上げるその方法は、近年のインスタレーションやVRといった多様なメディアへと展開しても、一貫して彼女の制作の根幹にあります。神話や哲学から量子力学などの現代科学に至るまで、幅広い領域への関心をもとに異なる要素を結び直すその姿勢は、常に「コラージュ」という思考に支えられています。

尾角が茨木でのリサーチでまず着目したのは、「堆積層（地層）」という視点でした。物質や記憶が時間とともに積み重なり、断絶や変容を経て新たな景色を生み出す。そのプロセスを、彼女は「茨木市をかたちづくってきた人々の声」を素材として収集し、コラージュの技法に重ね合わせました。さらにAIという異質な技術を共存させることで、アナログとデジタルが交錯しながら、土や植物が育まれる「庭」のように生成と循環を繰り返す空間を構築します。人々の声はコラージュの断片であると同時に、この土地と未来をつなぐ層となります。本展では、来場者は単なる観客にとどまらず、この循環を担う一つの要素として加わり、新たな時間の層を共に築いていきます。会場となる福祉文化会館は、長年地域で親しまれてきましたが、まもなく取り壊される予定です。本展を通して来場者に手渡される花の種が、この場所がなくなってもそれぞれの生活の中に芽吹き次の土壌へとつながっていけば幸いです。

STATEMENT

尾角典子
Moriko Okaku

私の関心は、「変容」するものそのものです。土地に根ざした民話や語りは、時代や人々の手を通して形を変えながら受け継がれ、現代ではデジタル技術も介入し、物語や記憶は新たな形へと変容していきます。私はそれらを物理的な土地や環境と絶えず影響し合う生きた情報のエコシステムと捉えています。茨木での制作では、市民の声を集め、日々の営みが街という「庭」を育む様子を実感しました。その営みはやがて層となり、痕跡となり、新しい景色を生む養分へと変わっていきます。今回の展示「生成の庭」では、こうした声をデジタルとアナログで交差させ、土の循環を意識しながら、生きた場をつくることを試みました。

庭の要素は互いに作用し合い、芽吹き、変化します。「生成の庭」は完成された作品ではなく、関係性の循環そのものを体験する場です。ここから新たな気づきや視点の種が生まれることを願っています。

Profile

1979年 京都生まれ。2003年Chelsea College of Art and Design ファインアート・メディア卒業。2005年 Royal College of Art アニメーション 修士。

ロンドンと京都を拠点に活動。哲学や科学、神話や民間伝承など多様な要素を組み合わせながら、コラージュを中心にアニメーション、インスタレーション、パフォーマンスなど幅広い表現を展開している。VRやAIなどの最新技術も取り入れ、解釈や意味の揺らぎを探る作品を生み出している。

主な展示やパフォーマンスに「#拡散展」十和田市現代美術館 space、2024、「THAT LONG MOONLESS CHASE / その長い月のない追跡」(金沢21 世紀美術館 & 21+、2023)、「VOCA 展 2019(上野の森美術館、東京)」、「The Interpreter」(QUAD Gallery、イギリス、2015)など。



《Visual for Yamawarashi》 2022

| 関連プログラム |

☑ アーティストによる展覧会ツアー

尾角典子とともに展示室を回りながら、展覧会の意図や作品の解説を行います。

日時 | 12月4日(木・初日)、14日(日)、20日(土) 13:00〜/各30分

会場 | 茨木市福祉文化会館(オークシアター)3階

参加費 | 無料(展覧会入場料別)・要予約

☑ 言葉と視点の刺繍ワークショップ

展覧会場をめぐり、そこで見つけた言葉や印象を布に刺繍します。手芸が初めての方も歓迎です。

刺繍した布は尾角がポーチに仕立て、後日お渡しします。(クリエイトセンターでの受け取りまたは、着払いで郵送)

日時 | 12月7日(日)13:00 - 17:00頃

集合 | 茨木市福祉文化会館(オークシアター)3階

参加費 | 3,500円(展覧会入場料込み)・要予約

定員 | 10名



刺繍イメージ

☑ アーティストトーク

アーティスト本人が作品背景や本プロジェクト・作品についてお話しします。

日時 | 12月13日(土)14:00 - 15:30

会場 | 茨木市市民総合センター

(クリエイトセンター) 1階 喫茶・食堂

参加費 | 500円(お茶付き)・要予約

【お問合せ】公益財団法人茨木市文化振興財団

〒567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号 TEL: 072-625-3055 (10時-17時)

作品制作や搬入搬出などお手伝いいただけるボランティアの方を募集しています。詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

主催 | 公益財団法人茨木市文化振興財団

助成 | 一般財団法人地域創造 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

後援 | 茨木商工会議所 茨木市観光協会

アドバイザー Advisor | 雨森 信 Nov Amenomori (2023-)

ディレクター Director | 内田 千恵 Chie Uchida (2023-)

| 展覧会 |

日時: 2025年12月4日(木) - 12月21日(日)

木金土日のみ開催

時間: 12:00 - 19:00

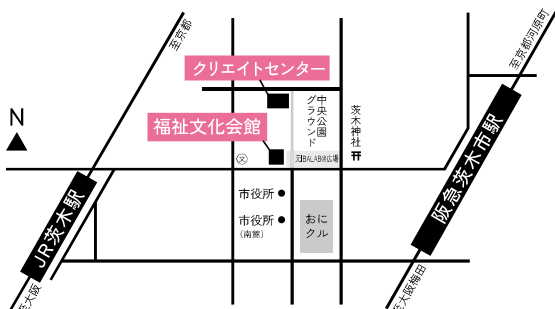
入場料: 500円(花の種付き)

大学生以下無料(学生証提示要)

茨木市在住・在勤 平日のみ無料(要証明書提示)

※土日は市外・市内問わず入場料500円

会場: 茨木市福祉文化会館(オークシアター)3階



茨木市福祉文化会館(オークシアター)

住所: 大阪府茨木市駅前四丁目7-55

阪急茨木市駅より西へ徒歩約10分、JR茨木駅より東へ徒歩約10分

阪急・京阪バス「市役所前」下車すぐ

※会場に駐車場はありません(お近くの市営駐車場、コインパーキングをお使いください)



◀ HUB 2025 PROJECT

<https://hub-ibarak-art.com/>

f Hub-Ibaraki @ hubibarak-art

HubIbaraki

HUB-IBARAKI ART PROJECT

For exhibition information in English, please scan the QR code.



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

Utilizing 70% post-consumer recycled paper pulp



いつか
かつて

と
なりて



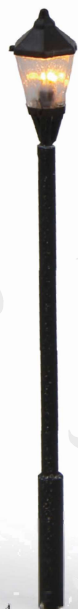
1



2



3



4

茨木市立ギャラリー

SOCIO-1 2F
ウインドウ

現代美術 茨木公式WEBサイト
<http://ibaraki-genbi-art.jp/>
主催 茨木市 茨木現代美術展実行委員会
デザイナー 大西正一
キュレーター 一平野 成悟

今村遼佑
堀尾貞治

二〇二五年十二月二日 金
二〇二六年一月五日 月

一〇:〇〇ー一九:〇〇 (最終日のみ一七時迄)

ICAW

IBARAKI
CONTEMPORARY
ART
WEEKS

茨木アートブックフェア | real SOU |
HUB-IBARAKI ART PROJECT |
現代美術 茨木 キュレーション企画

このたび「現代美術―茨木」の企画展として、

茨木市立ギャラリーおよび

Socio1 2F ウィンドウの

ふたつを会場に、

美術家の

今村遼佑と堀尾貞治による

二人展

「いつかかつてとなりて」を

開催いたします。

本展タイトルは、未来と過去とが折り重なってできる

内的な時間の厚みと、同時に漸進していく外的な時間の運行とを

示唆しつつ、主語の不在によって捉え難い「いま」の輪郭を

暗に浮かび上がらせようとしています。

ここでいう「内的な時間」とは、記憶を重要な要件として、

前後に分節化されない相互浸透的な時間のありかたを意味し、

「外的な時間」は時計によつて空間化された、

計量可能で単線的な時間の尺度のことを指しています。

本展では、哲学者アンリ・ベルクソンが峻別した

この2つの時間へと交互に意識を傾けながら、

五感へとささやかに働きかける装置によつて

再帰的な記憶の場面上演する今村の表現と、

日課だった制作行為の達成として「いま」という現在のな

感覚の連続性が結晶化した堀尾の作品を介して、

この世界／その感覚を書き留める方法について模索します。



5



6



7

今村遼佑 Ryosuke IMAMURA

一九八二年京都府生まれ。二〇〇七年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。日常に潜むわずかな出来事や現象を考察し、ものごとの確かなと不確かさのあわいを探索するような作品を手がける。インスタレーション、立体、映像、絵画など表現方法は主題に合わせて多岐にわたる。過去の主な展覧会に「今村遼佑×光島貴之 感覚をめぐるリサーチ・プロジェクト（感覚の点P）」展（渋谷公園通りギャラリー、東京、二〇一五）、「味ノ処」（神奈川県民ホール、神奈川県、二〇一三）、「セイアン・アーツ・アテンション16 Error of Reality」（成安造形大学、滋賀、二〇一三）、「エンカウンター」（ふたつの個性）（basement、五却のすりきり、京都文化博物館、京都、二〇一三）個展「永く遠く、瞬きする間」（FENCH ARTS、京都、二〇一三）など。二〇一六年にボーラ美術振興財団の助成を受けてワルシャワに1年間滞在。

堀尾貞治 Sadaharu HORIO

一九三九年兵庫県生まれ。一九六六年に具体美術協会会員となり、一九七二年の解散まで参加。一九八五年頃から「あたりまえのこと」という一貫したテーマのもとに国内外で年間約100回に及ぶ無数の個展、グループ展、パフォーマンスなどを行う。過去の主な展覧会に「Axa Verwoerd Gallery 個展 ベルギー・アントワープ、香港（二〇一八）、東アジア文化都市二〇一七京都・アジア回廊 現代美術展 堀尾貞治＋現場芸術集団（空気）（二条城、京都芸術センター、京都、二〇一七）」「A Fewerish Era in Japanese Art」（BOZAR、リッセル美術センター、ベルギー・ブリュッセル、二〇一六）個展「あたりまえのこと（今）」（B Plaza 美術館、神戸、二〇一四）、「Gutai: Splendid Playground」（オーブニング・パフォーマンス・タッグ・チーム美術展、ニューヨーク、二〇一三）、「横浜トリエンナーレ二〇一〇」（五堀尾貞治、現場芸術集団（空気）連続、82日のパフォーマンス、山下頭3号、4号上層、神奈川県、二〇一五）、「あたりまえのこと」（芦屋市立美術館、兵庫、二〇一三）

- 1 今村遼佑《どこかのこと》部分 | 2021 | モーター、Arduino、導線、拾ったもの、身の回りのもの
- 2 堀尾貞治《色塗り》1995 | 押しピン、アクリル絵具
- 3 堀尾貞治《色塗り》1998 | 鉄チューブ、アクリル絵具
- 4 今村遼佑《遠くの出来事》部分 | 2014 | ミニチュアの街灯、LED、ボールペン
- 5 堀尾貞治《色塗り》1995 | 押しピン、アクリル絵具
- 6 今村遼佑《雨の彫刻（嵯峨谷+1）》2013 | mixed media
- 7 今村遼佑《パケツと氷》2016 | パケツ、iPad、石
- 8 堀尾貞治《色塗り》制作年不明 | 鉄等、アクリル絵具

茨木市立ギャラリー

〒五六七〇八六 大阪府茨木市永代町一五 阪急茨木市駅ロサグリア2階、
休館 水曜および二〇二五年二月二日から翌年一月四日まで。
その他、臨時に休館することがあります

Socio1 2F
ウィンドウ

〒五六七〇八六 大阪府茨木市永代町五・五
ツシオ12階、
休館：会期中無休



8

ONIMO
MINI
KURU
ART
EXHIBITIONEXHIBITION
おにクル

おにクル 見にクル アート展

2025 12.2 TUE → 12.5 FRI

展示 9:00 → 19:00 販売 9:00 → 17:00

* 最終日 展示/販売 16:00まで

アンケート
回答者には
プレゼント
あり! (先着順)

2025

ONIMO
MINI
KURU
ART
EXHIBITION

障害のあるなし関係なく

個性あふれる数々の

作品が集結

みんなで作るアートな世界へようこそ

会場 | 茨木市文化・子育て複合施設
おにクル オープンギャラリー・エントランス広場

[1階オープンギャラリー・エントランス広場]

作品展示や障害福祉サービス等事業所の紹介
雑貨・食品等の福祉マルシェ/来場者参加型
のワークショップなど共催 茨木市(人権・男女共生課、障害福祉課)/障害福祉センターハートフル/ちかつアートフェスタ実行委員会
協力 人権センター/障害者就労支援センターかしの木園/障害者地域自立支援協議会/中央図書館/市民活動センター次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。



おにも見にクルアート展って何？

障害の有無、年齢、性別、国籍などに捉われず、個性溢れる作品を通じて、その作者や障害福祉サービス等事業所の魅力を感じてもらえるようなアート・作品展です。「おにも見にクルアート展」という名称は、これまで人権及び障害福祉の啓発を目的に各機関が個別に実施していた展示会を協働・連携することで、一つに繋ぎ生まれた展示会の総称です。令和5年度から、同一会期・会場にて開催しています。

また、茨木市に伝わる『茨木童子』の伝承と新しい公共複合施設である「おにクル」にかけて、鬼も見に来たくなるような、ワクワクやドキドキを共感でき、誰もが気軽に楽しむことができる展示会としてメッセージを発信します。

この展示会は、作品展示だけではなく、市民活動団体等による来場者参加型ワークショップ、障害福祉サービス等事業所で作られた製品販売の福祉マルシェなど、多機関・作者・来場者が共に創り上げ、より多くの方に興味を持っていただき、楽しみながらアートを身近に感じていただける展示会となっています。

参画機関

ダイバーシティアート展

人権・男女共生課(いのち・愛・ゆめセンター)・人権センター

人権週間(12月4日～10日)にあわせて実施する人権啓発イベント。

障害の有無や、年齢、性別、国籍などに捉われることなく、みんなで作るダイバーシティなアート展として、絵や造形など個性あふれる様々な作品を展示。

障害者地域自立支援協議会

おにも見にクルアート展

市民活動センター(市民活動団体)

障害者の手づくり作品展スペシャル

障害福祉課・かしの木園

障害者週間(12月3日～9日)にあわせて実施する障害福祉啓発イベント。

障害福祉サービス等事業所による作品の展示及び自主製品等の販売を通じて、障害者の作品を紹介。障害者の生産活動や就労への意欲を高めることなどを目的とする。

作品展示のほか事業所紹介やお菓子・雑貨等の福祉マルシェも実施。

アールブリュット展

障害福祉センターハートフル

北摂地域の生の芸術を創る作家たちによる、ダイナミックかつ緻密で心躍る作品を集めたアート展イベント。



ちかつアートフェスタ

茨木市地域活動支援センター

来場者、運営側の当事者ともに、気軽に足を運べる会場にて開催し、アート作品展覧会及び様々な団体との協働体験ブースの出展を行うイベント。

市内3カ所の地域活動支援センターの存在をより多くの市民に知ってもらうこと、また、利用する障害者が暮らす地域で自立した活動を行うきっかけづくりを目的としている。

イベントスケジュール ワークショップ・福祉マルシェ

【エントランス広場】
※一部有料プログラムあり

12月2日(火)

10:00 みんなでつくろう！
12:00 クリスマスツリー

(茨木市障害者地域自立支援協議会)

■参加費：無料



13:00 工作ワークショップ

16:00 灯ろうづくり

(ふくしはみくすと)

■参加費：無料



12月3日(水)

10:00 読書バリアフリーで
16:00 広がる読書の世界へ
ようこそ

(茨木市立中央図書館)

■参加費：無料



12月4日(木)

10:00～12:00 / 13:00～16:00

福祉ネイル体験

(福祉ネイルスペース Petal)

■参加費：キッズ 500円
大人 1,000円



12月5日(金)

10:00 パラリンピック競技

12:00 “ボッチャ”を体験しよう

(地域活動支援センター)
「菜の花」

■参加費：無料



13:00 ナントナティック

15:00 ウェイトリフティング

(いばらき自立支援センター)
「ばかばか」

■参加費：無料



物販 12月2日(火)～5日(金) 福祉マルシェ

(障害者就労支援センターかしの木園)

福祉マルシェでは茨木市内の障害福祉サービス等事業所で作られた手づくりの雑貨や焼き菓子等の自主製品を販売。さらには自分たちが心をこめてつくったものを自分たちの手で販売する単独出店ブースを設置。利用者の社会参加を全力で応援します。今年度は25事業所の自主製品を販売。単独出店は5事業所が参加します！ぜひ福祉マルシェブースにお立ち寄りください。



最新情報については、
右の読み取りコードから
HPをチェック！

